

県北NEWS グローカル版

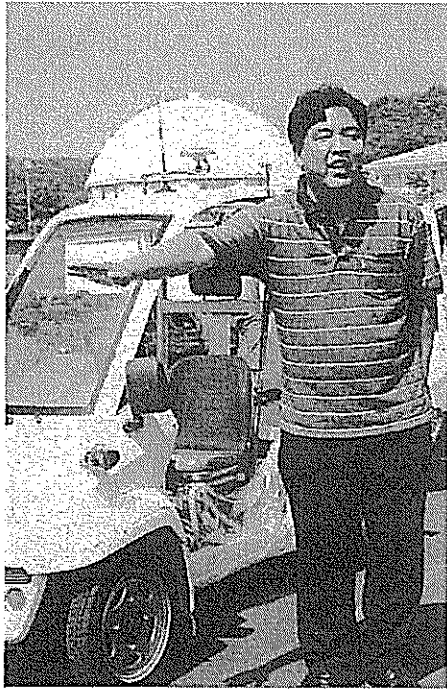
TEL(0229)
22-8633
FAX(0229)
22-2187

夜間連絡
報道部
090-2842-9166
栗原・登米支局
090-6253-6575
黒川支局
090-2971-7133

— だれでも自由に安全に —

新しいコミュニティ 社会づくりを目指す

慶応大「コ・モビリティ」電気自動車で実験



「コ・モビリティ」は、コミュニティ科学とモ

今後、市民参加の実験も

【栗原支局】慶応大が進めている、電気自動車を使った新しい移動システム「コ・モビリティ社会の創成」社会研究が8日、栗原市鷺沢の細倉マインプラザで行われ、同大大学院政策・メディア研究科の大前学准教授らが現地で実証実験の概要説明、自動運転デモ走行、屋内で遠隔操作などを公開した。この研究は、10～15年で実用化を目指すもので、今後は一般市民にも参加してもらい、実験を進めるという。

自動走行など公開

鷺沢 10～15年後、実用化へ

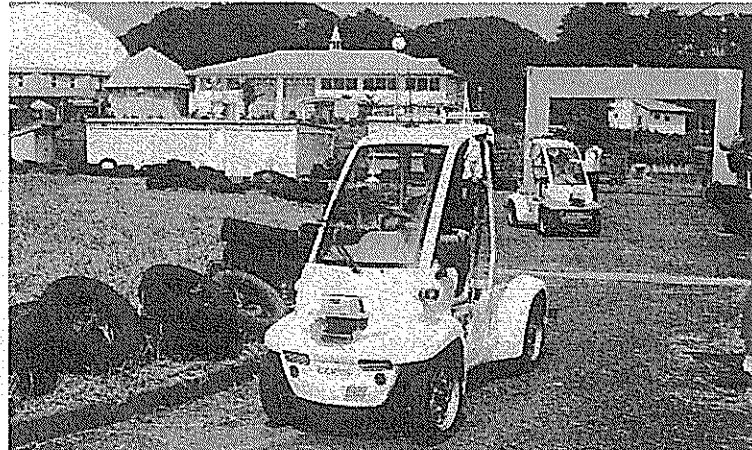
栗原

「コ・モビリティ」は、コミュニティ科学、人間調和科学を融合した考え方。少子高齢化が進む地域で、最先端の情報システムと融合した移動手段を導入することにより、子どもからお年寄りまで自由に安全に移動し交流できる、新しいコミュニティ社会づくりを目指す。

大前学准教授

遊休施設のコース内で行われたこの日の実験は4台の車両を使い、測量用の高性能GPS(全地球測位システム)と地図データを併用して走行させた。車両は「ヨタ「コムモ」を一部改造した1人乗り電気自動車で、鉛電池で動く。家庭用電源から18時間ほど充電し、約50キロの距離を走行することができる。車両はコース内を時速約8キロで走行。車両の位置や速度を自動的に計算し、障害物を感じし停止する。屋内で行われた遠隔操作の実験車両は、電動車いす

4台の車両による自動運転実験が行われた



にカメラやレーダーを装備し、障害物を回避。将来的には高齢者の通院や買い物などの移動、介護や医療の現場での応用も期待できるという。

大前教授は「公道を走るためには課題があり、一般車と共存できるように安全性や信頼性も高めたい。エレベーターのようにだれもが簡単に使用できるようにしたい」と語っていた。